



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



復鶉権兵衛物語  
全六冊

柳亭種彦校合  
北尾重政畫

前

13  
2378  
276

巳丑春新版  
西村屋版





遠  
2378  
276

復讐 鷓鴣 權兵衛 物語

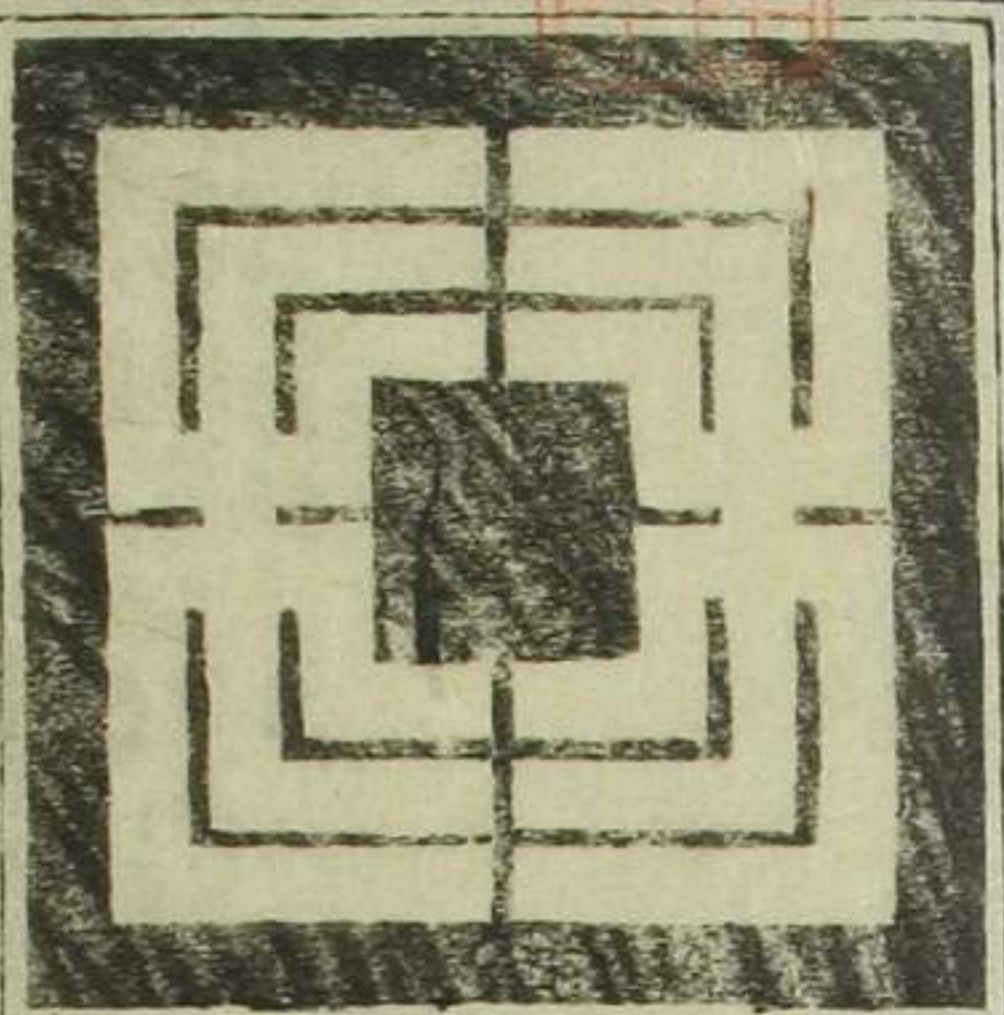
柳亭 種彦 校合

北尾 重政 書畫

林屋 正藏 作

文政己丑春新鐫 永壽堂梓

前編



續物語 鷓鴣 權兵衛

作者 林屋正藏

序

柳亭種彦誌

落し話と草ぼうし、壁を浪と水の如く只動く動うさるの違ふ、柳  
太宰の盃觴、天竺を佛在世百喻經を初めと述べきこと、  
日本の猿蟹合戦、鬼の持る宝の子、植をわくを佛説より出ると  
わる長老の物語りぬ、さて此道並見、名どころ、御藏るるみふ



紙袋曾呂利と納る朝細工その鯉口の輕口も二百年のむろく  
 のろ土佐節外記節時代伽羅といひも今の世の薰と云々知る  
 者も多。鹿の巻筆操かへも露かまを消く百年近曾豊後  
 新内とどの流行る頓作者の多く乃中せもをえんの落し斬や口  
 むひや化物漸の大仕掛高座どこのも焼耐火あつる元祖と世小  
 知れ。正藏が暇々小書の内りくる復讐言奇談ハ彼うごる水小  
 ちて舟のちりまのちの畑の潤ひ花を咲せ詞の林屋高座ど動  
 け人の浪うのとのを真行の隠語又縁あり貝貝負あを西道  
 かけく欲ふさひる鶴權兵衛とを号しかるべし

文政十二年己丑孟春

まじりぬはは上  
 當年の相あらざりて有がく御目見ははり  
 私事先年より持まえり落をかりの外よ  
 怪禮又ち復讐言の代著述仕ゆ委  
 校合あつて序文を相影みせりや  
 此本の対成は出板はる賣出の  
 寄附り思出はる見のわと備ふを希ふ  
 有支國の定席来二月二日午申戲他  
 物のうりむけおきたり披露はる所通行の所  
 申さる山は息あつてりまはるる



林屋正藏伏稟



鶉のせい

元の糸へそをちりちりして後  
あのみねを人の情の深さを  
洗芳の糸子契りよめたり



秩父

重忠近臣

鶉権兵衛

利勝

素衣  
鶉の  
よめ  
ゆき  
の  
湯  
糸子  
素衣  
我吉の妹  
妹のこころ

鶉権兵衛の妻  
八重







光助が下部  
分治

光助が  
妻  
於松



ひき  
比企の老職  
蓮葉  
泥左衛門

あむ  
千葉の藩中  
星月光助が  
下部  
寒藏

光助一子  
光吉





泥左衛門妹 阿亀



水天宮御守

鍔鍛治一龍齋  
權之助















































題外

五渡亭國貞画  
林屋正藏作



後

丑初春

永壽

上梓堂



加へて討鶴槍云々  
 後 柳三平権左衛門  
 少尾重政画  
 尾 林屋正藏作  
 文政丑の春刊紙 西村屋与八板

此行列の畧画の今の北尾重政の師匠故人北尾政美  
 工夫とそらと画きし人の人多く知る所あり師弟の  
 因ふ所のよし出せ  
 鎌倉の執権大江の廣元卿の  
 行烈と畧画めそ正面より見ゆる圖  
 林屋正藏模寫

































































